

<p>蝶類</p> <p>～唐津市に生息している貴重な蝶（1/2）～</p>	分野	自然
	地域	全域
	◎地図・写真・統計資料など	
<p>唐津の海岸線と周りの山に生息する蝶。</p> <p>■「クロツバメシジミ」</p> <p>海岸では鎮西町、名護屋及び周りの島嶼から呼子、湊、七ツ釜、立神岩の海岸線に生息する蝶。とても小さな蝶で親指の爪ほどしかないが、この蝶は幼虫時に、主に海岸に生息する「タイトゴメ」という植物を食して育つ。</p> <p>特に呼子の大友の海岸は多数の成虫が飛び交い日本一の産地と言われ、一時期全国から採集者がきたことがあるが、現在は呼子の下水処理場の建設のため、環境が激変し往時の面影は無くなった。</p> <p>■「キリシマミドリシジミ」</p> <p>環境庁カテゴリー：－ 佐賀県カテゴリー：準絶滅危惧種</p> <p>1. 選ばれた理由 産地は限られている。県内では背振山地や多良火山地などのアカガシ林に生息する希種である。</p> <p>2. 種のあらまし 本州（神奈川県以西）、四国、九州に分布し、主として産地の温暖帯林に産する。雄のはねの表は金緑色に輝く美しい種であって、個体数は少ない。ミドリシジミ亜科（ゼフィルス類）に属す。幼虫はアカガシを食べ、成虫は7月中旬～8月上旬に出現する。雄は10月頃まで生き残り、アカガシ休眠芽に産卵する。</p> <p>唐津市に位置する作礼山山瀬、半田の山間部、浮岳等に生息する蝶。大きさはモンシロチョウより少し小さいくらいの美しい蝶である。</p> <p>特に雄上面は金緑色の幻光が美しく、日本の誇れる蝶だと思われる。この蝶は幼虫時「アカガシ」の新芽を食べて育つ。一時期自然林の伐採の為に激減した。ただ、作礼山の北西面は伐採を免れたために、今でも多くの「キリシマミドリシジミ」が生息しているといわれる。何時までもこの蝶の飛翔を見られるように自然を残していきたいものである。</p> <p>～2/2へつづく～</p>		
◎引用・参考文献（出典）		
<p>◆『佐賀の昆虫』 佐賀昆虫同好会会誌</p> <p>◆『厳木町史』P174～</p> <p>◆環境庁・佐賀県レッドデータブックより</p>		
◎もっと詳しく知りたい方は		
<p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>		

<p>蝶類</p> <p>～唐津市に生息している貴重な蝶（2/2）～</p>	分野	自然
	地域	全域
	◎地図・写真・統計資料など	
◎引用・参考文献（出典）		
<p>◆『佐賀の昆虫』 佐賀昆虫同好会会誌</p> <p>◆『厳木町史』P174～</p> <p>◆環境庁・佐賀県レッド データブックより</p>		
◎もっと詳しく知りたい方は		
<p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>		

～1/2からつづく～

【絶滅危惧種】

■「タイワンツバメシジミ」

環境庁カテゴリー：絶滅危惧I類 佐賀県カテゴリー：絶滅危惧I類種

1. 選ばれた理由

県内では絶滅した産地が多く、現在では鎮西町名護屋に少数が生息しているにすぎない。

2. 種のあらまし

本州（和歌山）、四国（徳島、高知、愛媛の各県）、九州に分布する。屋久島以北と、それ以南ではそれぞれ別亜種（種の下分類階級）に分かれている。1980年代は少ないながらも数ヶ所の産地があったが、現在は東松浦郡鎮西町にのみ分布し、しかも極めて少ない。成虫は8月下旬～9月下旬に発生する。

3. 絶滅が心配される理由

生息地の草原が観光化で無くなったり、環境が破壊されて、幼虫の餌になる植物が生息できなくなった。今後、保護するには生息地の草原に大きな植物が生えないように工夫したり、環境に配慮した施工方法を考慮する必要がある。

この蝶もとても小さな蝶である。

1900年代までは現在の唐津市のあちこちに生息していた蝶で、特に鏡山は日本でも有数の生息地だったが、公園整備、キャンプ場整備等、環境が変わり絶滅してしまった。